

第1回郷土史調査

研究発表会等の実施

茨城偕行会 事務局局長

佐々木克徳 陸自71

茨城偕行会は、平成28年9月26日(月)

陸上自衛隊土浦駐屯地において、第1回

郷土史調査研究発表会を開催した。

本事業は、本年度から茨城偕行会の主要事業の一つとして新たに開始されたもので、茨城偕行会員が広く地元(の歴史、史跡等に)触れる機会を求め、その結果を共有することで、会員相互の交流や各種事業への参画意欲を図ることを目的としている。

第1回目の今回は、約2時間にわたり郷土史等研究成果の発表会と、陸上自衛隊の新装備品の研修を行った。当日の参加者は、原善昭会長陸自57はじめ従前会員2名を含む25名で、水戸・笠間地区や

鉾田方面からも多くの参加者があり、関心の高さがうかがわれた。

会場は、多くの会員が居住する土浦・霞ヶ浦地区に所在する陸上自衛隊土浦駐屯地とした。本駐屯地は、陸上自衛隊の創隊当時から最新のものまで各種の武器、車両等を保有し、武器科職種教育の中心地(武器学校)であるとともに、旧海軍予科練関連の資料を多数保有する雄翔館が駐屯地内に所在する。また、霞ヶ浦に隣接、筑波山や筑波学園都市にも近く、風光明媚な環境に連日多くの一般見学者が訪れている。

駐屯地に到着した会員は、経路沿いに展示された陸上自衛隊の戦闘車両や各種火炮等を見学しながら、会場の駐屯地広報援護班会議室に移動。隣接する予科練記念館「雄翔館」前に立つ山本五十六海

軍大将の像に敬意を表しつつ、会場内に入歩を進めた。

発表会は、主務担当である調査研究グループの大田保重幹事陸自71の総合司会により、定刻通り10時に開始された。前段の郷土史発表会においては、金澤孝一副会長陸自58による「武士の登場と戦いの変遷」の講演を拝聴する。

国防に携わった者として原点となる地元の武士について関心を持ったのが研究の始まりとのこと。今回は、「常陸の武将達」との研究成果のうち、導入部分である大和・奈良時代から戦国時代に至る間の武士(つわもの)の登場の様子や発展過程、また時代に応じた戦い方の変遷について、興味深い内容の発表が行われた。特に、数年前の大河ドラマ「平清盛」が坂東平氏の流れをくむことや、多くの時代考証等、地元常陸の歴史を強く意識させられる内容であった。

後段の陸上自衛隊の新装備品研修は、水陸両用車、10式戦車、11式短SAM(地对空誘導弾)、12式SAM(地对艦誘導弾)の研修を予定したが、話題の水陸両用車は学生教育のため分解中、12式SAMは中央観閲式予行に参加中とのこと。残念ながら10式戦車と11式短SAMのみの研修となった。

展示会場の霞ヶ浦湖岸に移動した参加者は、総合説明を武器学校第2教育部の緒方3等陸佐から受けたが、女性幹部自

衛官の流暢的確な説明に、会員一同感心一類りであった。

研修中、機甲科出身の坂本憲昭陸自73より、10式戦車のスラローム射撃能力や、目標のデータ・リンクについて鋭い質問が出るなど、最新鋭の装備品を目前に会員の関心も色々違い、大いに盛り上がる装備品研修となった。

発表会の前段・後段の間を活用し、大澤嘉昭名誉会長陸自60より「偕行」9月号への投稿記事「茨城偕行会について」の紹介と、特に歴代会長に関するエピソード等の補足が披露された。

また、土浦駐屯地創設直後の昭和27年から28年間にわたり、同駐屯地で勤務経験のある藤田廣作氏陸自68より、開設当時の貴重な思い出話や隣接する霞ヶ浦駐屯地との関係等について興味深い話題の紹介があった。

併せて、次回の研修発表会を担当する山根峯治副会長陸自70から、「茨城県における陸軍航空部隊にかかわる記念碑等の調査研究」について、研究の進捗状況と、事前の概要紹介がなされた。

予定の12時、全ての行事を終了し、それぞれ再会を約して土浦駐屯地を後にした。今回初めての試みであったが、多くの参加者より有益な研修だったとの報告もあり、本成果を踏まえて次回に反映できるところ準備を進めたい。

(第2回郷土史調査研究発表会は、本

年12月〜来年1月の間に実施の予定) 前出以外の本発表会への参加者は以下のとおり

- 門松昭夫陸自60、柳田金之助陸自52、井元潔陸自58、福井正躬陸自60、水越美知陸自61、竹内武司陸自62、久留島昭彦陸自64、湯原弘陸自68、中久喜勉陸自72、和知勲陸自72、河野廣行陸自74、片山博仁陸自80、樋口達哉陸自86、坪沼浩陸自01、荻沼威次(陸産研)、木村和雅(陸事務員)、高野愈己(陸事務員)。

